

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 5 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

早期水稲の田植えは平年並で、5月15日までに終了しました。(最盛期は4月下旬です。)田植後、高温で経過したため苗の活着及び初期生育は順調です。浅水管理で初期生育を確保するとともに、苗の活着を確認し雑草対策を適期に行いましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

6月上中旬植えの育苗作業が行われ、苗の生育は順調です。出穂期以降の高温を想定し、「夢つくし」の田植えは6月上中旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬を中心に行われる見込みです。「元気つくし」の田植えは6月中下旬の予定です。育苗管理では、いもち病やもみ枯れ細菌病などの病害対策を徹底し、各品種の移植適期を厳守しましょう。

◇麦類◇

今後の気象予報では高温が予想されており、成熟期は平年より1日早く、収穫は11月下旬播きの大麦・裸麦で5月21日頃、小麦で5月29日頃から始まる見込みです。穂数は平年並で、収量は平年(前年)よりやや多い見込みです。排水溝の手入れを行い、排水を徹底し、収穫前にカラスノエンドウなどの雑草を除去しましょう。また、コントリーエレベーターの荷受け計画を作成し、穀粒水分25%以下で適期に収穫を行いましょう。

◇冬春ナス◇

4月上中旬に出荷量の大きな山ができたため、成りづかれで草勢が低下しましたが、5月に入り草勢は回復中です。出荷量の増加は5月下旬以降の見込みです。3月以降の急激な気温上昇により日焼け果が発生しています。病害の発生は少ないですが、コナジラミ類が増加しています。成りづかれによる草勢低下と高夜温により、すすかび病の発生が懸念されます。適正管理による草勢の早期回復を図るとともに病害虫対策を徹底しましょう。また、日焼け果やつやなし果の発生を抑えるため、畝や溝に灌水し、ハウス内湿度を保ちましょう。

◇温州ミカン◇

開花盛期は、前年より7日程度早く、極早生・早生が4月27日～5月4日、普通温州が4月30日～5月5日となりました。着花量は「やや多い～多い」ですので、着花過多の園地では、樹勢回復のための葉面散布や早期の摘果対策を徹底しましょう。また、灰色かび病、スリップス対策を徹底しましょう。

◇カキ◇

各品種とも開花期（5/2～5/13）を迎えています。雌花の着蕾（花）数は、多い傾向です。開花期直前から降雨の日が多く、灰色かび病が一部で発生しています。着果管理（摘蕾・摘花）を徹底するとともに、不要な枝を除去し、過繁茂を防ぎましょう。訪花昆虫への影響に留意しつつ、病害虫対策を徹底し、特に降雨が続く場合は、灰色かび病対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

3～4月の出荷量は、前年比82%と少なく、冬季の低温・寡日照による生育遅れを回復できていません。春出しの出荷は5月まで残る見込みです。一方、3月以降の天候回復により、他の草花類の出荷が4月に集中し、単価の低下につながりました。6～7月出荷作型は、梅雨前に灰色かび病対策を徹底しましょう。7～8月定植では、ほ場準備を早めに行い、土壌消毒等確実に実施しましょう。

◇カーネーション◇

10～4月の総出荷量は、年内の出荷が順調であったことと3月以降の天候回復により前年比116%まで増加しました。今年度の生産は5月末までに順次終了し、改植準備へ取り掛かる予定です。次作の病害虫対策として土壌消毒等を確実に実施しましょう。

◇茶◇

一番茶の摘採は平坦地ではほぼ終了し、山間地では3分の2程度終了しました（5月10日時点）。4月の出荷量は平年より3割程度多く、販売金額の上昇に繋がっています。ハダニ、チャノキイロアザミウマ、チャトゲコナジラミおよびクワシロカイガラムシの対策を適期に実施しましょう。また、樹勢の低下した園や芽伸びが悪い園では、一番茶収穫終了後に更新せん定を実施しましょう。

◇肉用牛◇

4月の肉牛枝肉単価は、大型連休に向けた仕入れ増等で3カ月ぶりに上昇に転じましたが、前年同時期の水準までは回復できていません。最高気温が30℃近い日が多くなっていますので、早めの畜舎暑熱対策を行いましょう。また、舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。